



〒790-0067
愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5
TEL / 089-943-1151
FAX / 089-947-0026

発行責任者／理事長・院長 柚木 茂
編集／松山市民病院総務課

今号のトピックス

- ◇巻頭言
- ◇理事長就任挨拶
- ◇病院理念が新しくなりました
- ◇松山市民病院創立70周年
- ◇臨床の現場から
- ◇地域包括ケア病棟スタートしました!
- ◇連携医療機関の紹介
- ◇仕事疲れの特効薬
- ◇お知らせ

えいらい No.66

撮影：糖尿病・内分泌内科／仙波 英徳（満月 P6 に関連記事）

理事長退任 ごあいさつ

このたび 2026 年 6 月をもって一般財団法人永頼会理事長を退任いたしました。永年に渡りご厚情を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。

私は 1973 年に岡山大学を卒業後、脳神経外科学を専攻し、研究室生活を経て 1979 年松山市民病院に赴任しました。当院で浅利正二先生らの指導のもと脳神経外科専門医・学位並びに脳卒中専門医を取得しました。当時導入された最新鋭の CT にて造影剤のボラス静注による脳血管 CT 造影法（現在の 3 DCTA の前身）の臨床研究をもとに、浅利先生、貞本和彦先生らと共に脳動脈瘤・モヤモヤ病などの描出に成功し、海外ジャーナルや愛媛新聞に掲載されたことが懐かしい思い出となっています。

その後、故宮田信潔理事長・院長より 2009 年病院長を拝命し 2020 年まで、また兼任を含め永頼会理事長として 2015 年から本年まで務めて参りました。7 月以降は、柚木茂院長が理事長兼任という形で引き継いでおります。

振り返りますと 1980 年代の当院は、松山市の基幹病院として救急・急性期医療や慢性期・がん医療に携わり、団塊世代の医療従事者が中心となり多忙な診療に明け暮れていました。

1990 年～2000 年代には MRI など各種画像診断が、また治療法は顕微鏡手術や各診療科での内視鏡的治療が発展しました。近年では心臓・脳血管などの血管内インターベンション治療、さらに泌尿器科・呼吸器外科のロボット支援手術も加わり治療方針も多様化しその選択も患者主体となりました。

また、2011 年の東日本大震災以後は免震構造の新 S 病棟・タワーパーク・学生実習棟の建て替えと ER 室整備や電子カルテが導入され、病棟再編が進みました。2017 年から職員・地域の子育て支援としてリエール保育園（病児保育含む）が、さらに 2020 年から交通事故重度後遺障がい者（遷延性意識障がい者）に対する四国唯一のナスバ病床を受託し、活動しています。

一方、診療報酬のマイナス改定が続く中、2020 年以降のコロナ禍およ

山本 祐司



び物価・賃金上昇や人口減少により、病院は全国的に構造的赤字を抱え、一層の経営改善が必須となりました。本年 6 月、30 年ぶりの診療報酬の大幅値上げによる改善を期待したいところです。

さて、私自身、2024 年にコロナ感染と心筋梗塞に罹患し、その後体力を消耗するようになり、理事長職を辞す一つのきっかけになりました。

「市民の市民による市民のための」松山市民病院―「萬世永頼」から命名された「永頼会」―「永遠の信頼」を花言葉とする「リエール」が、多くの職員とともに過ごした私の当院での支えとなりました。

「地域の信頼に応える病院医療の実践」、「治す、支える、癒す、活かす」、「ために、ともに、あらたに」、「サステナビリティ & ウェルビーイング―いのちの大切さを大切に」などと掲げたスローガンを懐かしみつつ、退任を決断いたしました。改めまして、長い間のご支援・ご交誼いただきましたすべての皆様に感謝申し上げます。